

# 留 学 報 告 書

平成 27年 7 月 3 日

学 部 教育 学科・課程 言語教育専攻英語教育コース

氏 名 田村尚子

※ 留学先大学での成績証明書を添付すること。（島根大学に直接送付される場合はよい）

1. 留学先大学・学部 国名 アメリカ合衆国

大学名 セントラル・ワシントン大学

現地到着日（ 2014 年 9 月 18 日）

授業開始日（ 2014 年 9 月 24 日）

現地出発日（ 2015 年 6 月 12 日）

授業終了日（ 2015 年 6 月 11 日）

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

島根大学交換留学生申請、TOEFL受験、VISA申請、留学先大学との手続きなど。

3. 自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類、乗り換え地、所要時間）

自宅から米子鬼太郎空港まで車で30分。米子鬼太郎空港から羽田空港まで航空機で1時間強。羽田空港から成田国際空港までリムジンバスで30分から1時間（交通状況による）。成田国際空港からシアトルタコマ空港まで航空機で約10時間。シアトルタコマ空港から留学先大学まで予約制バスで2時間半から3時間（交通状況による）。

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

留学生オリエンテーションで成績表の申請と留学先大学での学生証の申請をする必要がある。また、授業の登録は大学のウェブサイト上で行うが、必要な場合はその授業の講師または教授と直接相談することができる。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

成績表の申請、その後1, 2週間の予定の確認など。プレースメントテストは特定の授業を履修する場合

以外必要なし。

---

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

授業の受け方は日本の大学での場合と特に変わらない。ペーパーや試験の傾向は授業によって様々であり、試験の代わりにペーパーの課題を最終課題とする授業もあれば、学期に5回の試験を受けなければならない授業もある。また、ほとんどの授業は大学のサイト“Canvas”への接続が必須である。

---

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

特に良かったのはENG320 Grammarの授業である。数字からもわかるように難易度は少し高めだが、英語を長く勉強してきている、または専攻が英語である人に適した授業である。ENG101は前者と比べるとかなり基本的だが、アメリカの大学では必須となる英語でのライティングのルールを学ぶには必須の授業である。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

Kennedy Hallという寮に住んでいたが、これはInternational Hallということもあり、アメリカ人だけでなく様々な国からの留学生がいる。またそれゆえ寮の人たちとの交流も多い。他の寮やアパートと比べるとこの寮に住む人たちの仲はかなり親密で、住んでいてとても楽しかった。後輩にはぜひこの寮を勧めたい。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

寮には寮の規則があるためその規則に従って生活する必要がある。行事は寮ごとで催されることが多く、その都度Facebookなどを通じて通知される。ルームメイトを持った場合はなるべく多くコミュニケーションをとったほうがよい。人によっては文化的、また宗教的な面で解釈が大きく異なる場合もあるため、同じ部屋で生活していく上ではより多い意思疎通が必須である。

---

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

（どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等）

銀行口座は作成しておらず、基本的には日本で作成したクレジットカードを使用した。現金が必要なときは日本から持参したものから使用した。

---

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

困ったりホームシックになったりしたら、インターナショナルセンターの自分のアドバイザーの人に支援してもらえる。体調が悪くなったときは大学内のメディカルセンターがある。

12. 現地案内（買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子）

買い物は大学付近にショッピングセンターが2軒あり、片方は徒歩でも行けるが両方とも無料循環バスでのアクセスが可能である。レストランは大学付近に点在している。銀行はショッピングセンターや大学内にある。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

シアトルタコマ空港から大学までのバスの予約をしていなかったため大学への到着が遅れた。小さいバスですぐ予約が埋まるので予約が必須である。また、ミールプランは1つのプランがかなり多いので少なめのものを選んだほうがよい。秋学期はsmall planを選んでいてかなり多く余ったので、冬学期からはその下のliberty planに変更した。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか）

病気になっていないので病院に行っていない。

15. お世話になった方々

インターナショナルセンターの方々、教授・先生方、友達のご家族など。

16. 留学先国内旅行について（場所、手段、費用、旅行社等）

冬休み期間中にロサンゼルスに1週間滞在した。航空機往復で400ドル、現地での交通機関利用で100ドル、宿泊費200ドル、雑費300ドルで予算は約1000ドル。大晦日はJTBのディズニーランドのカウントダウンのツアーに参加した。

17. 気候と服装について

現地エレンズバーグの気候は一年を通して乾燥しており雨が少ない。雨が降ってもあまり強く降らない

ため、傘を差している人は少ない。また、風が強い。冬は例年雪がかなり積もると言われていたが、この冬は雪がほとんど降らなかった。冬季は気温が低く、セ氏-10度まで下がることもある。逆に夏季は気温が高く、帰国直前の6月上旬でセ氏38度まで上がることもあった。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

常備薬、パソコン、ノート、衣服、インスタント食品など。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

日常英会話フレーズ辞典(広瀬直子著)

20. ホームステイの依頼方法

現地でできた友達に頼むという方法でのホームステイだったため、公的な手続きなどは特にしていない。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往) <u>114380</u> 円,	(復) <u>114380</u> 円
2) 準備費用		<u>120000</u> 円
3) 大学へ納入する費用		<u>645800</u> 円
授業料 (年間合計)		<u>535800</u> 円
保険等その他の費用		<u>110000</u> 円
4) 住居費 (光熱費等含む)		<u>606996</u> 円
5) 衣服代, その他雑費		<u>53000</u> 円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等		<u>84000</u> 円
7) 留学先国内旅行費用		<u>160000</u> 円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額		<u>1898556</u> 円
現地通貨 <u>USD 15378.30</u> 日本円換算 <u>1898556</u> 円		

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

帰国時の手荷物はスーツケース1個とリュックとボストンバック。別送品はシアトルにあるヤマト運輸と連絡を取り、段ボール一箱の船便輸送を依頼した。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

セントラル・ワシントン大学に留学して、語学力の向上はもちろん、異文化交流や大学の授業など様々

なことを経験することができた。また海外での一人暮らしを通して自分の人間性、自立する力などについて考えることができた。

一言で語学力が向上したと言ってもそれは結果的なものであり、英語での生活になかなか慣れることができなかった。最初の1か月間はネイティブの言うことがほとんど聞き取れず、自分の言うことも理解してもらえないという現実と向き合わされることになった。また話すことや聞くことに慣れてきても、外見が「アジア人」、「日本人」というだけでそのステレオタイプで自分の存在を判断される出来事は多く、「自分は外国人・マイノリティなのだ」という自覚が芽生えた。またその自覚から、自分は国際社会においてこれからどういう人間になっていくべきなのかを考えさせられた。一方で、このような苦い経験や失敗の数々を理解してくれる人たちとも出会った。このような出会いで、入国して1か月の頃の自分からは想像もできないほどの関係を、国境を越えたいろいろな人たちと築けたことは自分にとって人生の宝とも言える。

生活面では大きく自立することができたと感じる。人生で初めて親元を離れてアメリカで一人暮らしを経験することは決して簡単なことではなかった。島根大学から松江の実家に帰るように簡単に家に帰れるわけではないし、家族や友人に会えるわけでもないためホームシックになることもあった。このような辛い期間を乗り越えていくうちに、物理的にも精神的にも家族や友人がどれだけ自分の支えになってきたかを実感した。また、したいこともそうでないこともやるべきことも全て自分で判断・決断・実行しなければならない環境で生活することで、自然に自立していくことができたと考える。

大学の授業では自分の視野を広げることができた。日本の大学と違い、毎日の膨大な課題やリーディングに苦しむこともあったが、この1年は大学生活の中で最も勉学に励んだ時期となり、また課題や試験に逃げずに取り組んだことにより、より多くの知識や経験を得ることができた。専攻分野の授業もそうでない授業も履修することで、今まで国内や教員に絞っていた進路に国外や教員以外の職業の選択肢が加わった。さらに、授業を通して大きくサポートして下さる先生方と出会い、困ったときはいつも相談に乗って頂いた。

帰国して気付いたことは、ものの捉え方や考え方が大きく変わったということである。失敗や成功を繰り返したことで前向きに考えるようになった一方、自分はまだまだ未熟なことを何度も痛感したことで更なる成長を望む向上心も高められた。いろいろなことを学び、経験し、得たこの交換留学の機会を忘れることなく、一日一日を大切に将来に向かって生活していきたい。